



# 図書館だより

NOVEMBER



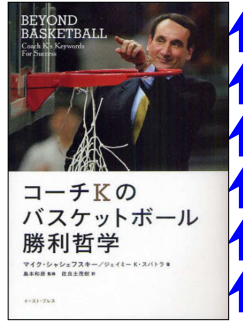
読書週間企画第2号をお届けします。今回は、第1学年を担当される先生方を中心に紹介文をまとめてみました。先生方がどんな本を読んでいるのか、どんな本をお薦めして下さるのか、楽しみですね。

筑波 大

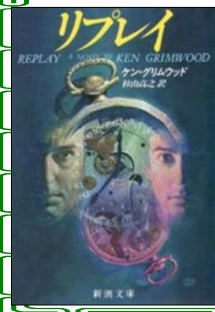
『コーチKのバスケットボール勝利哲学』

マイク・シャシェフスキー著 イースト・プレス

コーチKとはマイク・シャシェフスキー氏の愛称で、アメリカを代表する有名なバスケットボールの指導者です。シャシェフスキーという呼び名が言いにくいことから頭文字をとってコーチKと呼ばれるようになったようです。彼は、デューク大学の監督としてNCAA（全米学生トーナメント）で活躍し、アメリカでは知らない人がいないほどです。この本の中では、彼がコーチとして学んできたこと、体験したエピソードを交えて、自身のコーチ哲学が書かれています。指導者とはどうあるべきか、人生を豊かにするためにどんな考え方を持つべきか、などバスケットボールに興味がない人でも大変勉強になる本だと思います。実際に私自身も、バスケットボールのコーチとして、また教師としてこの本から学んだことが大きく、自分自身のバイブルとして大切にしています。



コーチKのバスケットボール勝利哲学



山本 宗明

『リプレイ』

ケン・グリムウッド著 新潮社

過去に戻ってやり直したいという願望は誰しもが持つものだろう。その時のことを振り返ってどのように対処すべきだったかを真つ当に慮ることが人の精神を成長させるのだと気付いた。読後、「やり直しのきかない一度きりの人生だからこそ、可能性は無限である」という作者のアンチテーゼに得心が行き、力を得た。諸君、お勧めである。

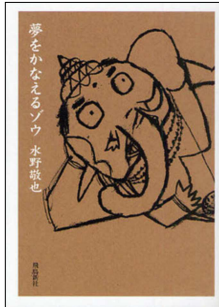
松木 久恒

『夢をかなえるゾウ』

水野敬也著

飛鳥新社

「毎日、変わりばえしないなあ」  
「このまま卒業するのかなあ」  
そう思ったら、読んでみて下さい。昔の偉い人のエピソードをを交えつつ、物語形式で進むからとってもわかりやすいです。そして、毎日の生活の中で変わるコツや実践することの意味を、実感してみてください。

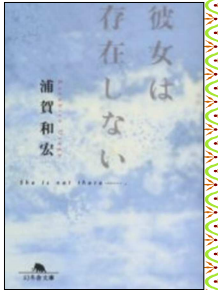


猪狩 昌行

『彼女は存在しない』

浦賀和宏著 幻冬舎

平凡だが幸せな生活を送っていた女性は、恋人の死によって歯車が狂い始める。見知らぬ女性から声をかけられたことによりすべてが始まってしまった・・・。  
少し過激なシーンもあるので注意してほしいが、衝撃的な結末が待っている、ミステリー小説です。



関口 久代

『大人の流儀』

伊集院静著

講談社



エッセイ集なのですぐに読めます。私はタイトルが気に入り買ってしまいましたが、意外と面白かったです。世の中の大人が誰でも作者のような考え方ではないし、作者のような大人ばかりでもありません。けれど大人はそんなものかもと、私は共感できる部分は少なくなかったです。  
大人は、、まあ大人には色々あるんですよ。

寺内 卓也

『流星の絆』

東野圭吾著

講談社



東野圭吾の作品はこれまで数冊読みましたが、その中でも割と読みやすく、読後感も悪くないです。着々と計画を進める功一、騙されてると知らずに静奈に好意を抱く戸神行成、両親の仇の息子と思いつつ、行成に恋心を抱いてしまう静奈…それぞれの視点で進められる物語は読み応え十分です。

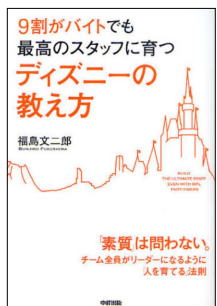
菅田 真文

『9割がバイトでも最高のスタッフに育つ

ディズニーの教え方』

福島文二郎著

中経出版



ディズニーランドで働くキャストは、なんと9割がアルバイト！！しかしどのキャストも適当に仕事をせず、温かい笑顔でいつも私たちを迎えてくれる。なぜなのか。そこには、創設者ウォルト・ディズニーの「ゲストへの想い」が今も尚受け継がれていた。



水本 光樹

『ルフィの仲間力

～「ONE PIECE」流、周りの人を味方に変える法』

安田雪著

アスコム

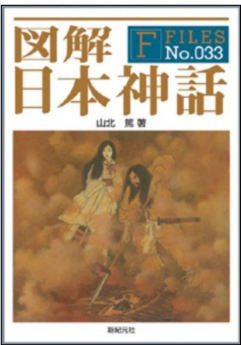


人気マンガ「ONE PIECE」を社会学の観点から考察し、主人公・ルフィから「仲間」について学べる本です。「仲間」は生きていく上で大切なものの一つです。

- ①仲間を集める方法
- ②仲間と助け合う方法
- ③仲間との信頼を強める方法
- ④仲間と一緒に成長していく方法

この面での成長を目指す人はぜひ読んでみてください。

武井 克朗  
『図解 日本神話』  
山北篤著 新紀元社



日本神話について、知ろうと思っただけで読んだ一冊です。天照大神の天岩戸伝説や、ヤマタノオロチとスサノオノミコトから、ダイダラボッチ、お稲荷様まで、日本に伝わる神話が大まかではありますが、分かりやすく知ることが出来ます。日本神話はこの国に伝わる大切な文化ですので、是非知っておいてもらいたいと思います。

小澤 光志  
『手ぶくろを買いに』  
新美南吉著 偕成社

おっちょこちょいな子狐と人間のやりとりがほほえましい。新美南吉の文章表現と黒井健の幻想的なイラストがあいまって、文章を読んでもイラストを見ても気分転換にはもってこいの絵本の一冊だと思います。



宮崎 勝美  
『聴覚刺激で頭の回転が驚くほど早くなる』  
田中孝顕著 きこ書房  
まあ、読んでください。読んだ後、試してみる価値はあると思います。さて皆さん、実験台。100人中何人に効果があるかな。

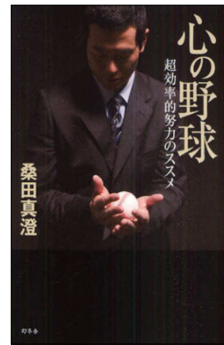


河西 亮  
『荻野の天空への理系数学』  
荻野暢也著 代々木ライブラリー

私がここ最近使っている問題集です。レベルは非常に高いです。教科書を終えて、標準問題やチャート式をクリアしてから取り組むのが良いでしょう。この本ができればどこの大学でも大丈夫です。また端書きには筆者の人生観が書いてあるので、そこだけ読んでもためになります。



五月女 修  
『心の野球～超効率的努力のススメ』  
桑田真澄著 幻冬舎



学業成績も優秀だったPL学園時代、巨人が指名するというのに早稲田大学に行きたいと言っていた高3のドラフト、エース絶頂期の大怪我から復活した巨人時代、小さな体で活躍するために知恵を絞ったメジャーリーグ時代、コーチでもなく解説者でもなく高校時代からの夢だった早稲田大学の大学院で学ぶことを選択した現役引退後の活動など、私にとって桑田真澄の人生は神秘的にさえ感じた。彼の「考え方の習慣」を知りたかった。それが超効率的努力……。無駄な努力はしたくない人、ぜひ一読を。

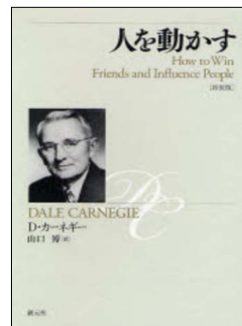
芦間 雄太  
『心を整える。』 長谷部誠著 幻冬舎



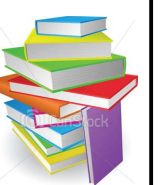
この本は、2010年サッカーワールドカップ日本代表の長谷部選手が書いた本です。部活動に所属しているほとんどの人が精神的なストレスを大会・発表会において抱えていると思います。そうした精神的な部分を主に長谷部選手が自分の体験を元に書いた本です。サッカーしていない人でも様々な所に生かせる本だと思います。是非読んでみて下さい。

塙 定之  
『人を動かす』  
デール・カーネギー著 創元社

私がこの本に出会ったのは20歳、大学生の時でした。たまたま本屋で目につき、買って読んでみるとまさに「目からウロコ」。それまでの自分がいかに自分本位で物事を考え、他人に対して求めてばかりいたのかを痛感した一冊でした。この本との出会いが、私の人生を変えたと言っても過言ではありません。この本には「人を動かすためには」、「人に好かれるためには」、「人を説得するためには」、「人を変えるためには」など、人間関係の原則が具体的に書かれており、皆さん高校生にとっても、人と接していく上で、これからの人生で必ず役に立つ一冊となるはずです。私は今でも何かあると読み返し、20代前半の、初めて教壇に立った頃の原点にかえっています。高校生にはちょっと難しい本かもしれませんが、是非一度読んでみて下さい。読んでみると、きっと皆さんの人生観・世界観が変わりますよ。塙先生お薦めの一冊です。



今回は、第2学年を担当される先生方の推薦図書が掲載される予定です。どうぞお楽しみに！

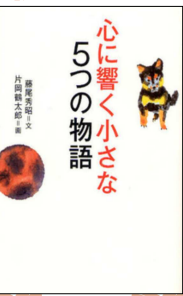


本井 睦也  
『自分の体で実験したい～命がけの科学者列伝～』  
レスリー・デンディ、メル・ボーリング著 紀伊國屋書店

「人間はどれだけの熱に耐えられるか」「体に良い空気とはどんなものか」。このような疑問に対してある者は多くの人を救うために、ある者は単なる好奇心から自らを「モルモット」にして実験した研究者たちがいた。人間の限界にチャレンジした、命がけの科学者たちのドラマである。



仁平 礼子  
『心に響く小さな5つの物語』  
藤尾秀昭著 致知出版社



すぐに読み終わってしまいます。でも、もう一度読み返したくなります。そして静かにさまざまな事を考えるきっかけになりました。